

(株)東葛毎日新聞社
 発行所〒277-0843 柏市明原2-3-14-203
 ☎:04-7146-7312/FAX:04-7146-7313
 
 fureai@bunya.ne.jp

ふれあい毎日

創刊は2001年、地域密着型の情報紙として、心温まる話題をお届けしています。

毎月第一水曜日発行

発行エリア
 市川・浦安・船橋・習志野・鎌ヶ谷
 八千代・佐倉・白井・成田・印西
 酒々井・富里・栄の13市町4万部発行

出品作品 約50点 「大きな文字」展 成田山書道美術館 開催中～8月20日(日)まで



千代倉桜舟「春殖」

もし視界の前に大きな文字が現れたら、何が書いてあるのか気になりませんか。特に最近では展示会場の壁一面を覆うような大きな作品や、高校生がイベント会場に曲に合わせて思い思いの言葉を大きな字で書くパフォーマンスも目にするのが多くなりました。「大きな字」への関心はより高まってきたと思います。



岩壁に彫られた大きな字を写し取ったもの

突然ですが、皆さんは「大きなもの」を見た時、どう感じますか。私たちは大きなものを間近にして、時に驚き、感動し、感嘆の声をあげるかも知れません。想像を超えた大きな姿が、見る者の感情に働きかけるからでしょう。



千代倉桜舟「春殖」

また、デジタル化や疑似体験がもてはやされる昨今ですが、ぜひ実物ならではの存在感を楽しんでいただきたい展覧会です。(成田山書道美術館 学芸員/山崎)

文章や言葉の意味が解りにくいと思われる方には、まづ文字の書きぶりや字の大きさを見ていただきたいと思えます。きっとそこには書者が何を伝えたいのかという創作のテーマと鑑賞のヒントが残されているでしょう。

私も今回の展覧会を企画して、文字の大きさや書きぶりに影響を与える要素の一つだと改めて感じました。デジタル化や疑似体験がもてはやされる昨今ですが、ぜひ実物ならではの存在感を楽しんでいただきたい展覧会です。(成田山書道美術館 学芸員/山崎)



大きな筆と後ろには常設展示「紀泰山銘」の大きな拓本



手島右卿「天心」



貫名松翁「眠雲臥石」

村山大明さん作品展「命まじわる絵」

開催中～8月15日まで

ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館



ペン画アーティスト 村山大明さん

ふなばしアンデルセン公園子ども美術館で、ペン画アーティスト・村山大明(むらやまともあき)さんの作品展「命まじわる絵」が現在開催中だ。会期は8月15日(火)まで。同館を訪問して作品を鑑賞した。入口を入って左側の大きな作品水辺のいきもの(2015×2020)が目を引き、魚、亀、ウナギ、



オオサンショウウオなどが水の中を泳いでいる。まるで自分も絵の中に入っているかのよう錯覚を覚える。右の壁の巨大な作品「Deep forest」は多種多様な動物、植物、魚、鳥などが細密に描かれ、優れた観察力が目を引く。作品に近づくと、亀の横にガラス、上にリス、その横にサメが竹を食いちぎっている。見る者を圧倒する迫力があるが、不思議な静けさに満ちている。平面作品は8点、奥の部屋には立体作品が25点ほど展示され、企画展そのものが、まるで森の中に迷い込んだような、不思議な感覚に囚われる。

この作品を制作発表した村山大明さんに創作の秘密を伺った。「幼稚園の頃から絵が好きで、友だちに鳥の絵をほめられたことが絵を描くきっかけになったそう。動物とかかわった最初の記憶は子どものころから森の中へ行き、野生の鹿をよく見かけた。オオサンショウウオも近くの小川にいたと楽しそうに振り返る。自然に囲まれて育った村山さんにとって生き物たちは作品のインスピレーションの源となっていたと思われる。(二面続く)



「Deep forest」の部分